

2つの状態群をもつ潜在マルコフモデル

菊池泰樹（長崎大学） 西晃央（佐賀大学） 野間口謙太郎（高知大学）

1. モデルの紹介

本モデルでは、時系列データ y_1, y_2, \dots, y_{2n} を扱う。システム状態 S_t ($t = 1, 2, \dots, 2n$) とデータ発生システムに関して以下を仮定する。

- S_t ($1 \leq t \leq 2n$) は定常状態に達した斉時的マルコフ連鎖にしたがって推移する。
- S_t ($1 \leq t \leq 2n$) がとるシステム状態は次の2群に分かれている。

$$E_1 = \{\varepsilon_1, \varepsilon_2, \dots, \varepsilon_{m_1}\}, \quad E_2 = \{\varepsilon_{m_1+1}, \varepsilon_{m_1+2}, \dots, \varepsilon_{m_1+m_2}\}$$

- $1 \leq t \leq n$ に対して、 S_{2t-1} は E_1 の、 S_{2t} は E_2 の、いずれか1つの状態をとる。

$$\sum_{i=1}^{m_1} P(S_{2t-1} = \varepsilon_i) = 1, \quad \sum_{i=m_1+1}^{m_1+m_2} P(S_{2t} = \varepsilon_i) = 1$$

- マルコフ連鎖の推移確率行列

$$\Gamma = \begin{pmatrix} O & \Gamma_1 \\ \Gamma_2 & O \end{pmatrix},$$

ここで、 Γ_1 は $m_1 \times m_2$ 行列、 Γ_2 は $m_2 \times m_1$ 行列であり、 O は零行列である。

- データ発生システム

- $1 \leq t \leq n$ に対して

$$S_{2t-1} = \varepsilon_i \text{ のとき, } Y_{2t-1} \sim g(\cdot; \theta_i), \quad 1 \leq i \leq m_1,$$

$$S_{2t} = \varepsilon_i \text{ のとき, } Y_{2t} \sim g(\cdot; \theta_i), \quad m_1 + 1 \leq i \leq m_1 + m_2.$$

- パラメータ

$$\Theta = (\theta_1, \dots, \theta_{m_1}, \theta_{m_1+1}, \dots, \theta_{m_1+m_2})$$

$\zeta = (\Gamma_1, \Gamma_2, \Theta)$ とおくと、完全データ $x = (s, y)$ に対する、定常分布を含まない対数尤度関数は次で与えられる。

$$\begin{aligned} \log f_\zeta(s, y) = & \sum_{i=1}^{m_1} \sum_{j=m_1+1}^{m_1+m_2} \left[\sum_{t=1}^n s_{2t-1,i} s_{2t,j} \right] \log \gamma_{ij} + \sum_{i=m_1+1}^{m_1+m_2} \sum_{j=1}^{m_1} \left[\sum_{t=1}^{n-1} s_{2t,i} s_{2t+1,j} \right] \log \gamma_{ij} \\ & + \sum_{i=1}^{m_1} \left[\sum_{t=1}^n s_{2t-1,i} \log g(y_{2t-1}; \theta_i) \right] + \sum_{i=m_1+1}^{m_1+m_2} \left[\sum_{t=1}^n s_{2t,i} \log g(y_{2t}; \theta_i) \right] \end{aligned} \quad (1)$$

2. EM algorithm

不完全データに対する推定法として広く利用されている EM algorithm によってパラメータの最尤推定値を求める。反復法である EM algorithm では、初期値 $\hat{\zeta}^{(0)} = (\hat{\Gamma}_1^{(0)}, \hat{\Gamma}_2^{(0)}, \hat{\Theta}^{(0)})$ から出発し

て、E(xpectation)-step と M(aximization)-step を、交互に、収束するまで繰り返す。

E-step では、 ℓ 回の反復後の推定値 $\hat{\zeta}^{(\ell)}$ が得られたとき、次の Q -function (Dempster, Laird and Rubin, 1977; 小西・越智・大森, 2008)

$$Q(\zeta | \hat{\zeta}^{(\ell)}) = E \left[\log f_{\zeta}(S, y) | y; \hat{\zeta}^{(\ell)} \right]$$

を計算する。(1) より、 Q -function は次で与えられる。

$$\begin{aligned} Q(\zeta | \hat{\zeta}^{(\ell)}) = & \sum_{i=1}^{m_1} \sum_{j=m_1+1}^{m_1+m_2} \left[\sum_{t=1}^n \hat{v}_{2t-1,ij}^{(\ell)} \right] \log \gamma_{ij} + \sum_{i=m_1+1}^{m_1+m_2} \sum_{j=1}^{m_1} \left[\sum_{t=1}^{n-1} \hat{v}_{2t,ij}^{(\ell)} \right] \log \gamma_{ij} \\ & + \sum_{i=1}^{m_1} \left[\sum_{t=1}^n \hat{u}_{2t-1,i}^{(\ell)} \log g(y_{2t-1}; \theta_i) \right] + \sum_{i=m_1+1}^{m_1+m_2} \left[\sum_{t=1}^n \hat{u}_{2t,i}^{(\ell)} \log g(y_{2t}; \theta_i) \right] \end{aligned}$$

ここで、条件付き期待値を次のようにおいた。

$$\begin{aligned} \hat{u}_{2t-1,i}^{(\ell)} &= E \left[S_{2t-1,i} | y; \hat{\theta}^{(\ell)} \right], \quad \hat{u}_{2t,i}^{(\ell)} = E \left[S_{2t,i} | y; \hat{\theta}^{(\ell)} \right], \\ \hat{v}_{2t-1,ij}^{(\ell)} &= E \left[S_{2t-1,i} S_{2t,j} | y; \hat{\theta}^{(\ell)} \right], \quad \hat{v}_{2t,ij}^{(\ell)} = E \left[S_{2t,i} S_{2t+1,j} | y; \hat{\theta}^{(\ell)} \right]. \end{aligned}$$

M-step では、 $Q(\zeta | \hat{\zeta}^{(\ell)})$ を最大にする $\zeta = (\Gamma_1, \Gamma_2, \Theta)$ を求め、次の段階の推定値 $\hat{\zeta}^{(\ell+1)} = (\hat{\Gamma}_1^{(\ell+1)}, \hat{\Gamma}_2^{(\ell+1)}, \hat{\Theta}^{(\ell+1)})$ とする。

- $\sum_{j=m_1+1}^{m_1+m_2} \gamma_{ij} = 1$ のもとで、 $Q(\zeta | \hat{\zeta}^{(\ell)})$ の第 1 項を最大にする γ_{ij} は次で与えられる。

$$\hat{\gamma}_{ij}^{(\ell+1)} = \frac{\sum_{t=1}^{n-1} \hat{v}_{2t-1,ij}^{(\ell)}}{\sum_{j'=m_1+1}^{m_1+m_2} \sum_{t=1}^{n-1} \hat{v}_{2t-1,ij'}} = \frac{\sum_{t=1}^{n-1} \hat{v}_{2t-1,ij}^{(\ell)}}{\sum_{t=1}^{n-1} \hat{u}_{2t-1,i}^{(\ell)}} \quad (1 \leq i \leq m_1, m_1+1 \leq j \leq m_1+m_2)$$

- $\sum_{j=1}^{m_1} \gamma_{ij} = 1$ のもとで、 $Q(\zeta | \hat{\zeta}^{(\ell)})$ の第 2 項を最大にする γ_{ij} は、次で与えられる。

$$\hat{\gamma}_{ij}^{(\ell+1)} = \frac{\sum_{t=1}^{n-1} \hat{v}_{2t,ij}^{(\ell)}}{\sum_{j'=1}^{m_1} \sum_{t=1}^{n-1} \hat{v}_{2t,ij'}} = \frac{\sum_{t=1}^{n-1} \hat{v}_{2t,ij}^{(\ell)}}{\sum_{t=1}^{n-1} \hat{u}_{2t,i}^{(\ell)}} \quad (m_1+1 \leq i \leq m_1+m_2, 1 \leq j \leq m_1)$$

- $Q(\zeta | \hat{\zeta}^{(\ell)})$ の第 3 項を最大にする θ_i は、次を最大化することによって得られる。

$$\sum_{t=1}^n \hat{u}_{2t-1,i}^{(\ell)} \log g(y_{2t-1}; \theta_i) \quad (1 \leq i \leq m_1)$$

- $Q(\zeta | \hat{\zeta}^{(\ell)})$ の第 4 項を最大にする θ_i は、次を最大化することによって得られる。

$$\sum_{t=1}^n \hat{u}_{2t,i}^{(\ell)} \log g(y_{2t}; \theta_i) \quad (m_1+1 \leq i \leq m_1+m_2)$$

参考文献

- [1] Dempster, A. P., Laird, N. M. and Rubin, D. B. (1977). Maximum likelihood estimation from incomplete data via the EM algorithm (with discussion), *Journal of the Royal Statistical Society, Series B* **39**, 1–38.
- [2] 小西貞則・越智義道・大森裕浩 (2008). 計算統計学の方法 - ブートストラップ・EM アルゴリズム・MCMC -, 朝倉書店.